

2025年度

こどものとも社 がお届けする

<https://ennaikenshu.com>

オンライン 園内研修



配信期間に研修を計画



講義+話し合いで学べる



職員全員で学びを共有



保育の専門性を高める



1
講座

参加費

22,000円(税込)

※施設単位でお申し込みください

配信期間 2025年5月～2026年3月

接続機器数、視聴回数、場所に制限はありません。

スマホ・PCから視聴が可能です。



本研修は、処遇改善等加算Ⅱに係る研修(幼稚園・認定こども園)の対象です

*詳細は運営事務局にお問い合わせください

(1)～(12)の講座をお届けします。

講座の詳細い内容は、
<https://ennaikenshu.com>



保育の専門性を園全体で高める研修

配信期間：2025年5月～2026年3月末

年間のスケジュールに合わせて、様々なテーマから選び、職員全員で学びを共有いただけます

(1) 子どものことばの獲得と学び 保育者が理解すべきこと

人生で最も重要とされる乳幼児期を、園で過ごしながらか成長する子どもたち。学びの土台となる「ことば」体験を、保育者はどのように展開すべきか学びます。

講師 今井むつみ

慶應義塾大学名誉教授、日本認知科学会フェロー。専門分野は、認知科学、特に認知言語学、言語心理学。受賞：Cognitive Science Society Fellow(2018年アジア初)、日本心理学会国際賞奨励賞(2007年)など。著書に「学力喪失—認知科学による回復への道筋」「言語の本質：ことばはどう生まれ、進化したか」など。

(2) 保育者の役割をアタッチメント、集団共同型育児、赤ちゃん学の視点から学ぶ 子どもと信頼しあう保育者になるために

子どもにとって、信頼できる保育者の存在は不可欠であり、乳幼児期にその役割は重要です。どのような生活と遊びを展開していくべきか、専門的な視点からそのヒントを掴みましょう。

講師 遠藤利彦

東京大学大学院教育学研究科教授。東京大学 CEDEP センター長を兼務。専門は発達心理学、感情心理学。おもな著書に「赤ちゃんの発達とアタッチメント」「アタッチメントがわかる本：「愛着」が心の力を育む」「心を育み発達を支える：保育におけるアタッチメント」などがある。

(3) 子どもの育ちを阻む「メディア」の影響を学ぶ 「生活リズム」「対人関係」「運動・遊び」「依存」の視点から

複雑化する「メディア」との関係は、子どもが適切に育つための条件を阻んでいます。それらの影響を具体的に把握して、園と家庭で確かな育ちを実現しましょう。

講師 原陽一郎

筑紫女学館大学人間科学部教授・NPO 子どもとメディア専務理事。保育士資格、幼稚園教諭、小学校教諭免許取得、福岡教育大学大学院教育学研究科学校教育専攻修了。子どもと「メディア(電子情報機器とコンテンツ)」との関係について研究・啓発している。

(4) 子どもの把握と理解 子どもを理解したい保育者のために

保育者は記録に頼らず、日常の保育の中で子どもを把握し理解できます。子どもに影響を与える要因を多角的に学び、援助の幅を広げる視点を得ましょう。

講師 高山静子
東洋大学元教授。教育学博士（九州大学）。保育と子育て支援の現場経験の後、保育者養成に携わり、2025年4月から研修に専念。研究テーマは保育者の専門性と共有化の方法。保育者の専門性を言語化した書籍（『環境構成〜』『保育者の関わり〜』『保育内容〜』『子どもの把握と理解』）がある。

(5) 保育の手立て(生活・手順・行為・関わり・遊び・環境)の意味と根拠を学び直す
すべての子どもに通じる理解と対応

保育の丁寧さ、優しさとは何か、具体的にどう実践するのか。保育者が気づき、取り組みたい、生活と遊びの手立てを学びます。日々の実践の形骸化を防ぎましょう。

講師 野藤弘幸
作業療法士。育ちに支えが必要な子どもと保護者の相談、そこに携わる支援者への研修を行う。著書に『発達障害の子どもを生き話にしない保育実践』『保育現場で悩む「おとな」への理解と対応』がある。

(6) 保育環境を写真から読み解き、実践に活かす
子どもが見ている世界に気づくために

保育現場の環境の写真を取り上げながら、アフォーダンスの視点から環境の持つ意味や可能性を探り、子どもの発達のための環境構成のあり方を学び直します。

講師 細田直哉
国立市幼児教育センター所長。東京大学卒業、東京大学大学院教育学研究科修了。小中学校教員、野外保育のNPO、大学教員を経て現職。専門は「人間の発達を支える環境づくり」。

(7) 絵本を保育実践へ活かす 絵本がつなぐ生活と遊び、園と家庭

「絵本の体験」と「生活・遊びの体験」が、共に豊かになることが大切です。絵本を保育実践にどう活用すべきか学びます。

講師 松本崇史
(福)任天会 おおりの森こども園園長。鳴門教育大学卒業。佐々木宏子名誉教授に出会い、絵本・保育を学ぶ。自宅蔵書は絵本で約5000冊。絵本販売に携わり、その後、(福)任天会 日野の森こども園園長を経て、現在に至る。

講師 こばと保育園
静岡県島田市の保育園。月刊絵本の日々の読み聞かせ実践から、日々の絵本体験の意味を伝える。

好評の研修の再配信 配信期間：2025年5月～2026年3月末

これまでに受講できなかった研修を、ぜひこの機会に！

(8) 乳児保育 一人ひとりを大切に育てるために (2023年開催)

確かな生活習慣を身につけて主体的に育つためには、日々の積み重ねが大切です。保育者と子どもの愛着形成を支え、発達に合わせた配慮と援助、そして多様な遊びを、豊富な実践写真から学びます。

講師 吉本和子 やまぼうし保育園 元園長

(9) 育児担当制の保育実践 始める、進める、深めるための具体的な手立て (2024年開催)

多くの現場で実践される育児担当制の悩み、つまづき、気づき、工夫、手立てを共有して、学び合う研修です。始めた園も、進んだ園も、深めた園も、共に具体的に学びましょう。

講師 井上章久・井上ゆかり わかたけ保育園

(10) 環境を通した教育を学ぶ 子どもとつくる保育と環境 (2022年開催)

保育という場では、子どもと保育者の成長のドラマが日々繰り広げられます。ヒト・モノ・コトのロジックの先にある、「育つ」という生気に満ち満ちた保育を目指す研修です。

講師 佐々木晃 鳴門教育大学大学院教授

(11) 子どもの発達を支える環境構成「遊びの写真」から保育の知恵を学ぶ (2024年開催)

保育者は、多種多様な素材・おもちゃ・環境を構成しています。アフォーダンスの視点で、様々な遊びと環境を読み解き、明日の実践につながる知恵を学びます。

講師 細田直哉 国立市幼児教育センター所長

(12) 発達障害のこどもに対する保育の考え方と取り組み 講義編・質問編 (2022年開催)

発達障害やそう思われるこどもへの対応について、その考え方やよく示す行動への具体的な対応を、講義編と質問編の構成で学びます。

講師 野藤弘幸 作業療法士

ご希望の研修の番号 (1)～(12) をご記入ください。		お申し込みは こどものとも社 へ
施設名	担当者名	
メールアドレス (お申し込み後、メールにて詳細をご案内します)	電話番号	